

— 地域貢献通信 —

住む人と建築士が協働して地域をつくる

地域貢献通信 No.24

第16回地域貢献活動発表会報告 テーマ「地域づくり+景観育て」

まちづくり委員会 木村 精治

1. 発表会概要

第16回地域貢献発表会は「地域づくり+景観育て」をテーマとして、平成26年3月15日（土曜日）、浜松市入野協働センターと入野地区で実施し、約40名の参加があった。

●主なタイムスケジュール

11時 入野地区路地歩き

13時15分 オープニング

13時20分 地域貢献助成を受けた2団体の発表

「中部ブロックまちづくり」

「入野まちづくり研究会」

14時 景観整備機構発表会

静岡県ヘリテージセンターSHEC活動
発表

15時 ワークショップ

「入野再発見民家と路地の利活用」

16時45分 クロージング

18時 交流会

●入野地区 路地と民家巡りツアー

今回発表団体の1つであり、発表会会場となる入野地区を参加者がまち歩きを実施し、地区の現況を視察した。

地区内は集落がコンパクトにまとまり、曲線したヒューマンスケールの路地とマキの生け垣、蔵などの歴史的建造物が点在する現況を確認した。

●助成活動団の発表

①「中部ブロックまちづくり委員会」は、「子どもの安全体験科学セミナー」をテーマに、静岡子ども科学館る・く・ると牧之原市の教育委員会との協働による、まちづくりの実践活動を報告した。

この活動では、防犯の課題に対応するために、子どもとその親に「自分の身は自分で守る」ことを、科学的に体験活動させ、家づくりまちづくりへの展開につなげていくことを狙いとして、建築士だけではこうした活動ができないため、関係する行政等との協働を実践した。また、参加した親子に、静岡県建築士会の存在価値を認知していただいた。

②「入野まちづくり研究会」

地元建築士の伊藤さんたちが、入野地区に存在する地域資源を再発見し、地域住民に気づいてもらう取組をイベントや地域資源のマップ化等を通じて、その価値を地域住民に伝え、維持・保全、利活用への展開を進めている。

③団体発表を通じて学んだこと

- それぞれの地域課題の解決のために、市民や地域住民に気づき・理解してもらうアプローチの工夫がされていた。
- 市民や地域住民が参加しやすい体験型の活動を企画・運営し、建築士との関係性を築き、信頼関係をつくること。
- 建築士だけでは、解決できない課題を異業種の専門家、行政等と手を組むことで、解決していること。
- 活動資金的な課題においても、地域貢献活動の助成金額の範囲の中で行うのではなく、課題解決のために、行政や関係団体と手を組み、不足する資金をカバーしていること。

●景観整備機構発表会

静岡県ヘリテージセンターSHEC活動を塩見さんが発表した。

県内の歴史的建造物を維持・保全、利活用していくために、静岡県ヘリテージセンターSHEC（シーク）を立ち上げ、ここを活動拠点として今後、展開していく。

全国的にも、ヘリテージセンターが設立されている中で、静岡県ならではの建築士、職人、行政との連携を図る取組や日本建築学会との歴史的建造物の情報共有化への取組促進などの紹介があった。

また、昨年に引き続き、国交省の助成事業の報告を行った。

●ワークショップ

「入野 再発見 民家と路地の利活用」をテーマとして、参加者が4グループに分かれて意見交換し、全体発表を通じて入野地区の民家と路地の価値を共有した。

- ・「内の目と外の目」による地域再発見
- ・空き家バンクを拠点とした地域振興
- ・「アート」の視点からのアプローチ
- ・開かれたコミュニティの育成
- ・交流人口の増大から定住人口の増加
- ・歴史的な地域資源と共存しつつ、居住環境の向上 など

これらの意見を地域へのお土産として、地元でさらに検討していただくこととした。

まち歩き



会場展示



西山会長あいさつ 堀内まちづくり委員長説明



助成団体発表



会場から質問 塩見景観整備機構副代表説明



ワークショップの様子

